大阪学芸高等学校
校　長　　森松浩毅

2025年度　高等学校　学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性を育み、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとに21世紀を生きる子どもたちが知的社会で必要とされる「複雑な問題に対する解決能力」「クリティカルシンキング」「創造性」などの人工知能にはできない人間味のあるスキルを身につけるための教育を推進する。そのために、授業の形態ではなく「今何をしなければいけないのか」「どういう行動をとるべきなのか」を考えて学ぶアクティブラーニングを推奨する。しかし、その根底として我が国の教育を支えて生きた「座力の育成」を教育の「不易」なものと捉え、アクティブラーニングと対局をなすパッシブラーニングに対しても否定するのではなく、「流行」に流されることなく「座学」を確立し時代の変化に対応できる生徒を育成する。

また、国際化が進む現代において、世界で活躍する人材の育成を念頭に「英語教育」「国際理解教育」を推進していく。特に、英語教育を進める上で「母国語」で物事を考えることの出来る力「国語力」が重要であると位置づけ、自国の言語、自国の文化に対する学習を強化・育成する。

理系教育にも力を入れるため、100周年記念会館を実験棟（サイエンスラボ）として改築した。1階を多目的教室、2階を生物実験室、3階を化学実験室とし、基礎実験に対しての興味関心を持たせるとともに実験の大切さを理解し、スキルを養う。また、プログラミング教育に対応するため、最新の情報処理室を新設し、３Dプリンターやドローンなどの設備も充実させた。更に、理系教育の推進のため大阪工業大学と高大連携の協定を結び、実験や講演など理数探究授業をすすめる。

ICT教育を推進するため、全館Wi-Fiを整備し、全教室に電子黒板をいち早く導入した。機器の老朽化にともない、最新の電子黒板（天井からの投射型）に入れ替え、さらにICT教育をすすめる。

また、西館校舎の老朽化に伴い、2026年度に新館校舎の建築を進める。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の３本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成する。

○ 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒　　○ お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒

○ 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒

※　真の国際人は自国の文化に深い知識を持つとともに、自らのアイデンティティーを見失わない視点で教育活動を推進する。

2　中期的目標

各部・各学年で「基本的生活習慣の確立」を目標としている。高校生には、保護者が獲得してほしい資質の１位である「学力・知力」は勿論のこと、上位に来ている「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「責任感」（高校保護者アンケート結果）を獲得することを教育の柱と据え、結果として４年制大学進学実績の向上（保護者アンケートによる希望が１位４年制私立大学文系、２位４年制私立大学理系）という重点目標達成を目指して目標を達成するための具体的な行動計画を立てる。

※　外部評価機関の「授業評価、クラス経営評価、保護者からの評価アンケート」を実施・分析し数値を示して改善を図っていく。この数値は「プラス評価」－「マイナス評価」であらわされる「指数」となっている。

例えば、60指数は80%のプラス評価－20%のマイナス評価のことを指す。したがって**「60指数以上」A、「59～20指数以上」B、「19～－20指数以下」C、「－20以下」D**と考えて評価・分析する。指数と書いていない数値については%の割合表記。

1　生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導を推進する。

⑴ 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的な生活習慣(座力)の確立」なくしてあり得ないという教育信念から昨年度に引き続き「気づく心の育成」「チャレンジ精神」「思考力の育成」に努め、自己管理能力(自制心)を高める。また、生徒を指導する教職員の資質を向上させるために機会あるごとに啓発を行って行く。

ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める「自己管理能力を育成」し時間を守ることの大切さを自覚させる。(自己管理)

イ、いじめを許さない学級、学年、学校「文化」を作り出し、生徒全員が安心して登校し学習できる学級・学校を目指す。(他者理解)

ウ、社会人として巣立つにふさわしい「服装・マナー」の向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出す。(教養育成)

エ、SNSやメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションが図れるように指導する。(人権育成)

特に一人一台のタブレットを持たせているのでその正しい使い方を指導していく。

オ、教育裁判の事例を職員会議等で示して教職員の危機管理能力を高めるとともに「危機管理マニュアル」を作成し、啓発を行う。(危機管理)

⑵ 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から教科学習、講習等様々な教育活動を通して時間の使い方を学ばせるため「学芸手帳」(バーチカルタイプ)の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習活動(クラブ活動も含む)を利用する習慣を定着させる。

※ 生徒は「iPad」または「Surface Go」を所持しているが、アナログの「学芸手帳」に書き込みことにより一層自分のスケジュールの管理や目標に向かっての進捗管理・やるべきことを確認するTo Do List を意識しやすくしている。

この「自己管理能力」を高める中で保護者・生徒の願いである「自主自律の姿勢」「4年制大学進学」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに「電子黒板(天井設置の投影型に入れ替え)」「i-padまたはSurface Go(一人一台)」「Wi-Fi環境の整備」「スタディ・サプリ」「スタディ・サプリ・イングリッシュ」「駿台サテネット」「管理自習室の設置」「予備校出前授業」を利用した授業・講習を通して自学自習を推進し授業改善にもつなげていく。

また、特に本校が力を入れている国際理解教育の推進のために専門学科である「国際科」を立ち上げ、ブリティッシュコロンビア州の海外校を設置したダブルディプロマコースとカナダまたはニュージーランドで学ぶ1年留学コース、グローバルコースを設置し、さらなる「英語教育」「国際理解教育」を実践。グローバルコースでは英語だけでなく、第2外国語としてスペイン語・韓国語・中国語を学習し、オンラインにより世界各国の高校生と

交流も行い、真の「国際化」を目指す。

「国際科」にとどまらず、「普通科」でもネイティヴ教員による英会話授業について少人数対応を実施し、４技能の育成をする。

看護コースについては、4 年制大学進学をするメリットが周知できてきている。大学進学実績についても結果が出てきているが、更に生徒・保護者のニーズに応えられるよう大学進学実績を向上させていく。

以上のように進路指導の基盤となる教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」(年 2 回)と教職員間の相互授業参観等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善の視点を知らせる。7 月の調査で改善すべき点を示された多くの先生が 2 学期に改善を図る。

ア、教育のデジタル化に対応し「電子黒板」「i-pad」「Surface Go」「スタディ・サプリ」「スタディ・サプリ・イングリッシュ」「駿台サテネット」等の利用促進を行い授業改善に努める。

イ、グローバル化に対応した教育活動を展開するため英語教育の改善と国際理解教育の推進をさらに図っていく。

ウ、教員に対する生徒の授業アンケートを実施し「自己の授業の振り返り」を行わせ授業方法の自己点検を行うとともに授業力向上のための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高める。

エ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験の機会を増やす。

オ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させる。

カ、理系科目への興味関心を持たせるため、サイエンスラボでの実験を充実させる。

キ、新設した情報処理教室を利用しプログラミング教育に取り組む。

ク、大阪工業大学との協定による、高大連携を通し理数探究を促進する。

⑶ 社会に貢献できる資質の育成

「少子高齢化社会」「国際化」「外国人労働力の流入」「AI の進化」などの社会情勢の中、生徒たちは、自立・自律の精神とともに社会の中で自己を活かす精神と実力をもった大人として成長していかなければならない。生きていく社会の中で「自分は何ができるのか」「どう行動するのか」を考える視点を持たなければならない。本校がすべてのコースでクラブ活動を認めているのも教科の学習だけではなく、学校行事やクラブ活動、ボランティア活動等を通してこれらの資質向上を図れると考えているからである。

特に子どもたちの生活の基盤となる「クラス」において互いに助け合う精神の確立が大切だという認識のもとに教育活動を行っていく。

ア、ボランティア活動やセレッソとのオフィシャルパートナー契約、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。国際ボランティアの取り組みとして公益財団法人大阪国際交流センターと提携し、留学生のイベント等にボランティアとして参加をする。また、大阪観光局とも連携し、海外からの教育旅行を受け入れるなど観光局の取り組みに参加している。

イ、クラブ活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成する。

ウ、体育祭や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや自分の意見を分かるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、調整力を育成する。

エ、日々の授業に対する姿勢こそが「集中力を養う最適の手段」であり、学習とクラブ活動・奉仕活動・学校行事への取組等を両立する中でこそ「生活体験に基づいた生きた知識(智恵)を育成できるという観点で教育活動を進める。

2　保護者に信頼される学校づくり

⑴ 保護者への情報提供

「校区という地域」を持たない私立高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。子どもが勉強や各種行事で活動する姿が見えるように情報発信の質を高めていくことが大切だと考える。その基盤となるのは子どもたちが担任をはじめ教職員を信頼し、学校生活を充実して過ごしている姿を家に帰ってきた子どもから保護者が感じることができるようにしなければならない。また、「進学校」として進路指導を充実していくことも欠かせない。成績懇談や保護者集会を充実し、生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質を高めていく。

このために保護者対象のアンケートを行い、本校の教育活動の振り返りと改善点を明確にする。

ア、保護者の学校への信頼度(生徒・保護者へのきめ細かな対応と学校生活の充実)を高めていく。

イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深める。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し保護者・生徒に質の高い豊富な情報を発信し幅広い選択肢の中から進路を決めていくことのできる環境づくりに努めていく。

エ、インスタグラムを開設し、保護者への情報発信の充実をはかる。

⑵ 危機管理体制の確立

異常気象の表れと思われる局地的豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を地域社会とも連携し構築していくことが求められている。特に大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していく。

ア、避難訓練(火災時の避難経路と地震時の避難経路の区別)を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整える。

また、日々の教育活動の中で「危険予見義務」と「危険回避義務」を教職員の使命と認識し、事故防止にも努める。万一の災害・事故に備えた保険についての知識を高め教職員賠償保険や第三者賠償保険等にも加入して教職員・生徒の保障に努める。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

〈自己診断の結果と分析〉	【学校評価委員会からの意見】
1　基本的生活習慣の確立 保護者アンケート「生活指導は充実していて規範意識と自律性の育成に十分な効果をあげているか」という質問は 76%（昨年 76%）の肯定回答と高い数値になっている。この数字と比例して「この学校に入学させて良かった」という肯定回答も 79%（昨年 77%）の数値となって現れている。保護者が子どもに獲得させたい資質も 1 位が「学力・知力」で 2 位が「自主自立の姿勢」となっている。また、「本校の特色は何か」と言う質問で「子どもたちがいきいきと学習や部活に取り組んでいる」「公平な指導」「クラ	**1　基本的生活習慣の確立** ○保護者アンケートの「規範意識と自立性の育成について、十分効果を上げている」という質問に対し、肯定的な回答が高い数値になっている。引き続き、生活指導の充実に努めてほしい。それが、入学させて良かったという満足感につながると考える。 ○子どもに獲得させたい資質の上位が「学力・知力」、「自主・ 自立の姿勢」であることは、「学力向上」と「人間性の育成」のバランスが取れた教育を本校に求めておられることが分かります。そのためには、学校が重点を置いてい

ブ活動と学習の両立」「学習指導」への評価が高い。保護者の大半が子どもの学力向上・進路保障だけでなく本校の教育目標の「社会に貢献できる青年の育成」に賛同していることが分かる。
この目標達成のために「遅刻」「服装」等のルールの遵守を指導目標としてきた。今後も遅刻指導については、高校生ともなれば自分で時間管理が出来なければならず、親に頼っていてはだめだということを機会あるごとに該当生徒やクラス指導で訴え、「遅刻は他人の時間を奪う行為」と言う意識の定着を図って行く。ただ、コロナウィルス感染症の影響から今も「遅刻」「欠席」に対してのハードルが極めて低くなっている。今後の大きな課題と考えている。自主自立の姿勢を確立し、時間の使い方を学ばせるために「学芸手帳」の利用をさらに進めていく。又、挨拶については言われてするのではなく意味の理解をするための話を生徒達にした上で実践するように促している。

いじめ行為は、保護者アンケート「いじめがなく安心して登校できる」との肯定回答が 84%（昨年 84%）と高い数値となっている。油断することなく早期発見を目指して 5 月と 11 月にアンケート調査・教育相談を行い、クラブにおいても練習終了後、着替えた後のミーティングで生徒の様子を観察するように教職員を指導している。いじめアンケート調査では、無記名アンケート実施後、記名アンケートを実施し早期発見とともに「いじめは許されない行為」という学校の姿勢を生徒達にも持たせていく指導の場としても取り組む。さらに、生活指導の事例を職員朝礼時に話し、日々注意喚起を教職員にする中で教員の生活指導力の向上にも努めてきた。

特に今の子どもたちは大人が想像する以上のストレスをためており、小さないじめが引き金となって自死するに至ることを考え子どもの言動に注意を払うように啓発していく。

一方、学校現場を悩ませている SNS については「ソーシャル・メディア・ポリシーの確立」に向けて今年度も方針を明確にし、SNS による嫌がらせ行為減少に努めてきた。しかし、全くなくなるということはなく、継続的にクラス、学年集会、全校集会で訴えていく必要がある。

2　学力向上と進路実現

「子どものやる気を引き出し、学習活動に前向きに取り組んでいる」という評価についても肯定回答が 74%（一昨年 73%、昨年 71%）と高い評価になっている。「どのような進路の実現を望んでいるか」（複数回答可）の回答の「国公立文系」20%（昨年 24%）「国公立理系」16%（昨年 15%）「4 年制私立大学文系」56%（昨年 56%）「4 年制私立大学理系」27%（昨年 25%）となっており、圧倒的に 4 年制の大学進学希望が多くなっている。内訳も例年と大きく変わっていない。学校の取組として理系教育の推進をあげているが若干理系希望の増加があった。これは本校の進学実績が良好であることも要因であると考えられる。

また「進路指導が充実していて生徒の進路指導の発見・実現に十分寄与している」という肯定回答が 78%（一昨年 74%、昨年 75%）となっている。進路指導部を中心に取り組んだ結果、毎年少しではあるが増加している。授業や講習の取り組みは勿論、「スタディ・サプリ」の利用。更には全員が「駿台サテネット」を利用できるように改善したことも進路指導の充実につながっていると考えられる。学力向上は、日々の授業がこの鍵となる。学力向上に大きく寄与する「先生の好感度」については、改善すべき点を意識していくことで向上していくが、学力向上実感(この授業を受けて学力があがったと実感できるか)とリンクしていない教員も見られた。「学力向上実感」が低い割に「好感度」の高い教員はいるが、「好感度」の低い教員で「学力向上実感」が高い教員はいない。全てがリンクするわけではないが、「好感度」を意識することは大切な要素である。現場の教員が、服装・身だしなみ・言葉遣いを意識できるような取り組みを考える必要がある。

ハード面では、すべての教室に電子黒板が設置され、全員がタブレットを持つようにした。それらを使用して活用できるようにスタディ・サプリ、スタディ・サプリ English を導入し、自学自習を促し学力向上を図っている。

また、進路指導については、指定校推薦や公募推薦、更にはいわゆる AO

る「自学自習」の習慣を醸成していく事が大切と思います。

○生徒アンケートを見ると「先生がいなくても服装やルールを守っているか」の評価が C となっている。日ごろから、ルールを守る、挨拶をする等、基本的な生活習慣を確立することが大切であると思います。その上で、「学芸手帳」を活用し、遅刻をしないなど、時間管理をしっかり行って欲しいと思います。

○「いじめ行為」は、生徒指導上の大きなテーマです。保護者アンケートの「いじめがなく安心して登校できる」の肯定回答が 84%となっています。いじめの事実や兆候を早期に発見するため、年 2 回、5 月と 10 月にアンケート調査を実施しておられる。また、担任による教育相談やクラブ活動時の生の様子の観察等を行い、きめ細かい対策を講じているのは大いに評価できます。

○「いじめ行為」については、「ＳＮＳによる嫌がらせ行為」が関与しているケースが多いのも大きな課題です。高校生は、法的な知識や社会的相当性 に関する判断能力も十分に備わっていません。「面白そうだから」とか、「別に問題ないと思った」という程度の理由で行なった投稿によって、自分自身が簡単に「被害者」にも「加害者」にもなり得る「危険性（怖さ)」について、集会等あらゆる機会をとらえ、継続的に指導を行なって頂けたらと思います。

○大学生が採用試験の前日に、当日の天気によって交通機関が止まった場合、どうすればよいかを尋ねた際、主催者が「自分で考えて判断してください」と回答した例があります。高校生に対しても、自分がどう行動するのかの判断力を養って欲しいです。

2　学力向上と進路実現

○保護者アンケートの「子どものやる気を引き出し、学習活動に前向きに取り組んでいる」という質問の肯定回答が高い数値になっているのは評価が出来ます。また例年通り、4 年制の大学進学希望が多くなっている。引き続き 1 年生からの系統立てた進路指導をお願いしたいと思います。

○「進路指導が充実していて生徒の進路指導の発見・実現に十分寄与している」という肯定回答も高い数値になっている。この指標が数年前まで、70%を切って推移していたということですから、進路指導は年々充実していると大いに評価が出来ます。今後も進路指導のさらなる充実を図って戴くよう宜しくお願いします。

○進路指導については、高校生は大学卒業後の就職を見据えて大学を選択する、中学生は大学進学を見据えて高校を選択するなど、次の次の進路を見据えて指導することが大切だと思います。

○自学自習の習慣を身につけさせるため、「ハード面」で特筆すべき点は、ＩＣＴ環境の充実です。すべての教室に電子黒板が設置され、生徒全員がタブレット端末を持っているという環境は大変優れていると思います。こうした電子ツールを授業での活用や課題提出で利用しておられるのは、大いに評価が出来ます。

○日々の授業や講習の他、「スタディ・サプリ」や全員が利用可能の「駿台サテネット」等、「学力向上」・「進路実現」を図るために本校が実施しているプログラムは多彩であり、非常に充実していると思います。しかも夜９時まで「管理自習室」を開放しているため、生徒は落ち着いた学習環境で勉強に集中 することが出来きると思います。このように、「ソフト面」・「ハード面」の両面で学校挙げて教育環境の充実を図っていることがよく分かります。

○生徒のアンケートで、自分が感じる「学力向上実感」と先生への「好感度」の相関が大きいと分析されています。生徒が教員を判断するポイントとして「好感度」の比重が大きいことが分かりました。先生に対する好感度が下がれば、生徒の授業への取組み意欲は低下して行くことでしょう。授業の説明がそれなりに上手であったとしても、生徒がその先生の授業に対して「興味・関心を引く」「やる気が湧く」ことがないと、「学力向上実感」には繋がりにくいと思 います。先生方は、アンケート結果を踏まえ指導法の工夫改善に努めてほしいと思います。

○「指定校推薦」・「公募推薦」といった多様な入試制度が存在する中で、「一般入試」まで受験勉強を続けて、目指す進路を獲得するためには、強い意志が必要です。特進コースでは一般入試まで頑張って受験する生徒が増加したということで、自分の目指す進路を獲得するために、如何にモチベーションを保つかについて的確な進学指導がなされていると評価できます。

○保護者アンケートの「入試情報などの進学指導に必要な情報は、生徒のみな

入試などの年内入試で早く進路決定をしたいという生徒・保護者も多く、如何に自分の目指す進路獲得に向けて頑張らせていくかが大きな課題である。大学の募集状況により指定校入試から AO 入試へとシフトしている状況がある。例年と比較しても特進コースの生徒は一般入試まで頑張って受験する生徒が増加し、大学進学実績も大幅に伸ばすことができている。今後も一般入試まで受験していけば目標とする大学への合格可能性が広がることを指導していきたい。「入試情報などの進学指導に必要な情報は、生徒のみならず保護者にも十分提供されている」という保護者アンケートの肯定回答も 72%（一昨年 69%、昨年 72%）であり、さらに伸ばしていく必要がある。 **3　社会に貢献できる資質の育成** 本校は、すべてのコースで「勉強とクラブ活動の両立」を奨励している。これはクラブ活動を通して先輩と後輩の在り方、未熟な生徒にどのように教えれば向上するのか、そのためには自分はどのような背中を後輩に見せればよいのか等を経験する中で真の奉仕の精神が生まれるものと確信している。セレッソ大阪とのパートナーシップ提携によるホームゲームボランティアについても出来るだけ参加をした。また、公益財団法人大阪国際交流センターや大阪観光局と提携し、国際ボランティアの機会を持つことも出来、子どもたちの心に「奉仕の精神」を醸成できたと考える。 **4　保護者への情報提供** 保護者アンケート「学校のホームページは充実していて必要な情報を得ることができる」の肯定回答は 77%（一昨年 78%、昨年 78%）となっている。更に、インスタグラムを開設し、学校の取り組みについてリアルタイムに知って頂けるようにした。また、保護者から見て「担任は相談しやすく、親切に対応してくれる」というアンケートは 90%（一昨年 89%、昨年 91%）の肯定回答を得ている。私学は、地域という「校区」を持たないため、学校から保護者への情報発信のあり方が保護者との信頼関係を築く上で非常に重要なものとなる。これらが「知り合いや親せきにこの学校を進めたい」という肯定回答に 79%（一昨年 76%、昨年 77%）の数値となって現れている。 また「懇談会は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している」という保護者アンケートの肯定回答が 77%（一昨年 86%、昨年 87%）となっている。昨年から 10 ポイント低下していることの原因を把握し改善する必要がある。以上から保護者との連携はまだ課題はあるとしても順調に推移していると考えている。 **5　危機管理体制の確立** 本校は大和川以南からの通学者が多く、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難となる生徒が 3 分の 1 を超える。このため、4 月より各自に教室保管用の避難物資を購入し、その対応を図ることが出来た。この取り組みは今後も進めていきたい。	らず保護者にも十分提供されている」の肯定回答が昨年度と同じ 72%となっている。今後、さらに伸ばして行くために、進路指導の更なる向上に向けた学校の取り組みに期待しています。 ○教員の服装・身だしなみ・言葉遣いについては、こどもにとって教員が身近な存在であり、一日の長い時間を学校で過ごすことから学習環境を構成する重要な要素になります。この点を意識しておられると大変評価できます。 **3　社会に貢献できる資質の育成** ○全コースで「勉強とクラブ活動の両立」を奨励しているのは大変良いことだと思います。クラブ活動は、厳しい練習に耐え地道な努力を続ける「忍耐力・継続力」の他、同じ目標を持つ仲間との「共助意識」など、社会に出た際に必要とされる資質を磨くことが出来ます。 ○ボランティア活動に力を入れているのも良い取り組みだと思います。自分のことしか考えない「利己主義」ではなく、他者に対する思いやり、奉仕の精神等を育む素晴らしい取り組みだと評価します。 **4　保護者への情報提供** ○保護者アンケートの「大阪学芸のホームページは充実していて必要な情報を得ることができる」の肯定回答が 77%、「担任は相談しやすく、親切に対応してくれる」の肯定回答が 90%、いずれも高い数値結果が出ていることについては、大いに評価できます。更に学校の取り組みをインスタグラムを活用しタイムリーに発信しているのは、特に本校を希望する中学生にとって効果的だと思う。引き続き、情報発信をよろしくお願いします。 ○その他、「学芸新聞」の発行や「さくら連絡網」など、目的に応じた様々な情報提供の媒体が用意されています。私学は、地域という「校区」を持たないため、情報発信のあり方が非常に重要だと思います。生徒・教員・保護者の三者連携を円滑にすることは、教育目標を達成して行く上で不可欠の要素だと考えます。 ○保護者懇談会では、担任の先生は生徒の悪い点があったとしても、最初は三つ良いところを挙げた後で、一つでも改善して欲しい点を指摘すると、保護者は受入れ易いと思います。 ○ＳＮＳ等で情報過多になっている現代において、どこにでも載っている情報だけでなく、自分の子供にフォーカスした情報や、学年の情報、身近な教員しか分からない情報でも、しっかり保護者に提供されており評価できます。 ○情報過多の現代において、携帯インスタの情報をただただ見たり、ＡＩがすべて答えを出してくれる時代になった。便利な反面、想像力が少ないこどもが増えた気がする。 ○保護者への情報提供は、例えば生徒が欠席すればその日のうちに電話連絡をして様子を伺う、学校の様子を伝えるなど、生徒の情報を密にすることで先生と保護者の信頼関係を築く基盤になると思います。 **5　危機管理体制の確立** ○ここ数年、自然災害の規模や頻度が拡大しており、夏季の豪雨は常態化して来ており、大和川の氾濫や通行止めによる生徒の帰宅困難事態はいつ起こっても不思議ではありません。こうした事態に備えて避難物資を購入し、教室で保管する取り組みは高く評価できます。 ○帰宅困難者が出た時の避難物資の購入については、保護者として安心できます。

3　本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基本的生活習慣の	**1 規律ある学校生活の確立** (1) 規範意識と自立性の育成 (2) 学級集団の育成 (3) 教職員の学級経営・生徒	私学の最大の教育目標は生徒の「学力保障」にある。その基盤となるの「落ち着いた学習環境」と言える。 クラス・学年の秩序は真面目な生徒たちによって支えられているという認識のもとに校則をきっちりと守り、気づく心を持って困っている人たちに声を掛けることのできる	(1) 現在の学校生活について「規則正しい生活を送れる」という指数を 60 以上とする。 (2) 学校生活全般を通じて「この学校には、いじめは少ない」という指数を 60 以上とする。 (3) 学級経営において	(1) 1 年 57、2 年 30、3 年 36、全体で 41（一昨年 45、昨年 46）となっている。コロナウィルス感染症の影響で、「遅刻」「欠席」に対するハードルが下がってしまっている。コロナ収束から数年が経過しているがその傾向は変わっていないので、今後の学校教育においても大きな課題と考えられる。「学芸手帳」を利用してのスケジュール管理など保護者との連携を密にして指導を継続していく。 (2) 1 年 62、2 年 36、3 年 44、全体で 48（一昨年

確立	対応能力の向上 以上の三項目を達成する中で学習環境を整え学力向上をめざします。	生徒を育成する。 (1)風紀週間・下校指導・服装違反等を定期的に実施し、生徒の規範意識向上を図る。 ○指導カードの発行による啓発 (2)「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念する。 ○いじめ対策委員会の実施 (3)学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行う。 また、生徒の人間関係を深めクラスと言う仲間育成の場で担任のきめ細やかなリードのもとに子どもたちの良さを引き出すことのできる担任力を育成する。	①「生徒の態度や行動が間違っているときはきちんと叱ってくれる」指数を50以上とする。 ②「生徒間のトラブルは少なくクラスメートを大切にする風土がある」という指数を60以上とする。 (4)「良い友人が多い」という指数を 60 以上とする。 (5)担任は「クラス生徒全員と話す機会を持とうとしている」という指数を40以上とする。 (6)担任は「ホームルーム活動が充実して行えるように工夫してくれる」という指数を50以上とする。 (7)「クラス全体で取り組む活動を通して一体感が持てるように指導してくれる」という指数を 45 以上とする。	56、昨年 51）と 3 年続けて低下し、目標を下回っている。2 年生の数値が低くなっている。より高い質の意識向上を図るために「いじめアンケート」の実施と全体指導をしていく。 (3)①1 年 56、2 年 38、3 年 30、全体で 41（一昨年 35、昨年 35）となり 60 指数には至っていない。学年が上がるに従って数値が悪くなっていることの改善の必要がある。 ②1 年 38、2 年 24,3 年 20、全体で 27（一昨年 33、昨年 27）となっている。目標値には届いておらず、改善が必要である。 (4)良い友人が多いという評価では満足度指数が 1 年 83、2 年 67、3 年 74、全体で 75（一昨年 79、昨年 79）となっており、高い水準で推移している。 (5)1 年 45、2 年 38、3 年 35、全体で 39（一昨年 37、昨年 33）と 3 年続けて低下し低下していた数値が改善傾向にある。1 年生のみ目標値をクリアしているが他学年の改善が必要である。話しを好きな生徒だけではなく、大人しい生徒の状況を把握することでクラスの状況がわかってくる事を理解した上で、全ての生徒と話す機会を持つことが大切であると理解し改善する必要がある。 (6) 1 年 33、2 年 23、3 年 16、全体で 24（昨年 24）となっておりまだまだ数値を高めることが必要である。 (7) 1 年 58、2 年 48、3 年 68、全体で 58（一昨年 60、昨年 58）となっている。行事が学校教育の中で大きな役割を果たしていることがわかる。
2 学力向上と進路実現	**2 学力向上と進路実現に向けた取り組み** (1) 生徒による授業満足度の向上 ○ 授業アンケート ○ 教育のデジタル化 電子黒板とタブレット利用の促進 ○ 英語教育の改善 (2) 自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身に着ける。 ○ スタディ・サプリ・駿台サテネット・管理自習室の利用促進 ○ GTEC・英検・漢検等資格試験受験の促進 (3) 希望進路の発見と実現に寄与する。 ○ 国際理解教育の促進 ○ 多様な講習の充実	高校は「4 年制私立大学への進学」を望む保護者の願いに応えることと言える。このため教師の授業力向上は本校教育の根幹をなすと認識している。 また、成熟した民主主義社会は「選択と自己責任」の社会と言える以上複雑化する大学入試の情報提供は欠かすことができません。 授業力評価のアンケートを分析すると授業を受けて「学力向上実感」があると評価された先生は「好感度」においても高い数値をあげています。この保護者の信託に応えるために次のような取組を行う。 (1) 授業力の向上をめざし、7 月実施の 1 回目の授業評価で「何が評価を下げる原因となっているのか」「どの点を改善すればよいのか」を自己研鑽させ、2 回目の授業評価で数値改善をはかっている。 また、主任を中心に担任・教科担任がクラスの授業の状態を把握し、問題がある場合はすぐに改善策を打つ体制を整備する。 (2)デジタル教科書が急速に普及してくることに対応して全館整備が終了した電子黒板に加え、i-pad、Surface Go を利用し授業改善に取り組む。全館最新の電子黒板（天井	(1)相互授業参観を実施する。 授業アンケートを実施し次の項目のプラス指数を向上させる。 (2)教員の「好感度指数」を 60 以上とする。 (3)「先生の授業を受けることにより学力や知識の向上を実感できる」という学力向上実感指数を 60 以上とする。 (4)クラスにおいて「授業時間は集中して授業を受ける生徒が多い」という指数を 60 以上とする。 (5)「さまざまな進路希望に対応できるように教育課程は適切に整備されている」という保護者アンケートの肯定的意見を 60 以上とする。 (6)「入試や進学に必要な情報が十分に提供されている」という指数を 40 以上とする。 (7)「進学講習が学力の伸長につながった」という指数を 60 以上とする。 (8)「全科目にわたり学習	(1)教育は指導者の力によるところが大きい。このため、指導力のある教員が新任教員を指導する体制の確立が急がれる。「授業参観レポート」を作成し相互授業参観を昨年度に続き実施したが、普段の授業で互いにコミュニケーションをとって点検しあい高め合うまでには至っていない。また、教科会で指導案等の点検・意見交換等もはかられていない。 (2)教員の生徒からの好感度と学力は比例するものである。平均好感度は全国水準の 74 指数に対して本校は 78 指数となっている。 (3)学力向上実感は 63 指数(一昨年 60、昨年 60)となっている。1 年 61、2 年 60、3 年 69 となっている。昨年は 3 学年だけが目標を上回り、全学年で上回ることを改善目標として挙げた。全学年で目標達成することが出来た。しかし、安心せずに数値を挙げていく必要がある。 (4)指数としては 1 年 19、2 年 16、3 年 12、全体で 17（一昨年 30、昨年 26）となっており、3 年連続で低下している。授業中の集中は基本であるので更に改善へ向けて取り組みを実施し、目標数値にすることが必要である。 (5)高校の保護者の 83%（一昨年 80%、昨年 81%）は肯定している。高い水準となっている。 (6)肯定的意見に回答してくれた保護者は 72 指数（一昨年 69、昨年 72）となっている。否定回答が 20（一昨年 22、昨年 16）となっている。肯定的意見が増加したが否定意見も増加した。指数としては 52（一昨年 47、昨年 56）と低下している。肯定意見の増加も必要であるが否定意見を減少させ

		からの投影型）に入れ替えを行った。 (3)スタディ・サプリ、スタディ・サプリ･イングリッシュを導入し生徒の学習環境を整え自学自習を推進する。 (4)駿台サテネットの利用や管理自習室を通して自学自習の力をつける。3 年生全員が無料で利用できるようにした。 (5)GTEC・英検・漢検等の資格取得者を増やしていく。 (6)生徒のニーズの高い 1 年留学制度をさらに整備・充実する。 (7)グローバルコースについては、ターム留学を始め、オンライン英会話や国際交流で世界の高校生とオンライン交流を実施していく。	指導は充実しており学力向上に十分成果をあげている」という指数を 60 以上とする。 (9)英検準 2 級以上の資格保持者 25%以上とする。 (10) スタディ・サプリの初期設定ログイン 95%を目指す。 (11)英語教育改善の方策を打ち出します。 また、1 年留学制度の整備充実を図る。 (12)ターム留学制度の整備・充実を図る。 (13)オンライン国際交流の実施。	る必要がある。進路指導部が中心となって進路便りを発行し、情報提供に努めている。しかし情報を見ていただけていない状況もあるので、配信の方法を考えていく必要がある。今後も指数が 60 以上になるよう進路説明や個人懇談などをきめ細かく実施する必要がある。 (7)生徒からは 16（一昨年 6、昨年 11）という結果であり 4 年続けて改善はしているが、改革の必要がある。特に 1 年生で 34、2 年生 7、3 年生 7 となっており、やらされる講習ではなく自ら考えて自学をする必要がある。 (8)保護者アンケートを分析すると肯定回答は 73（一昨年 69、昨年 73）であるが、否定回答も 19（一昨年 22、昨年 20）となっている。 (9)英検準 2 級以上の合格者の学校申込者は、2 級（1 年 6 人、2 年 22 人、3 年 27 人）全体で 55 人。昨年は全体で 65 人であった。1 年・2 年の 2 級の合格は減少しているが、3 年では増加している。準 2 級（1 年 37 人、2 年 52 人、3 年 1 人）全体で 90 人となっており、こちらは 2 年での合格が増加している。英検の受験料が高くなっているが、大学入試で英検取得者の優遇制度も増加しているため、今後も伸ばしていく必要がある。 (10)本校の教育の柱となる「自学自習」を進めるためのスタディ･サプリのログイン数は 100%となっており当初の目標は達成されている。 (11)円安の影響も有り費用は高くなっているが、国際教育に興味を持つ生徒・保護者が増加している。
	3　社会性の育成 (1)助け合う雰囲気あふれるクラスづくり (2)部活動の活性化 (3)ボランティア活動の充実 (4)学校行事の充実	学校教育の目的は、教科指導による学力の向上とともに多様な体験活動を通して集団の中で協調性や耐性、社会性を育てることも大切な使命である。本校が「両立」を合言葉にすべてのコースで部活動を可能としている理由もここにある。 (1)クラス経営力を向上させるため学年会での相互点検･改善を進める。 (2)クラブ活動の成績と普段の学校生活は密接に関係することを指導しクラブと学習の両立を図る。 (3)ボランティア活動の充実 クリーンキャンペーンとして地域清掃を行い、ボランティアサークルの活動として大阪マラソンボランティア活動（中止）への参加やセレッソ大阪ホームゲームボランティアを進めます。 国際ボランティアにも新たに取り組みを始めます。 (4)生徒の自主性を育てる学校行事を促進する。	(1)①「クラス全体の結束力が強く行事の中で達成感や一体感があると感じることが多い」②「困っているクラスメートがいれば誰に対しても手助けをする生徒が多い」という指数を 60 以上とする。 (2)「学校生活（学習面・部活動など）についても明確な目標があり、その実現に向けて前向きに取り組むことができている」という数値を 60 以上とする。 (3)「学校行事が充実するとともに様々な工夫の跡が見られ、教育的な配慮が強く感じられる」という保護者アンケートの指数を 60 以上とする。	①1 年 58（一昨年 60、昨年 52）、2 年 48（一昨年 56、昨年 56）、3 年 69（一昨年 64、昨年 68）、全体で 58（一昨年 60、昨年 58）指数という結果が出た。学校教育における行事の大切さがわかる数値になっている。 ②1 年 42、2 年 32、3 年 28、全体で 34（一昨年 36、昨年 33）となっている。B 評価止まりになっている点を考えると生徒たちへの心の教育の必要性を感じる。しかし、個々の生徒は親切心があるが、集団となるとなかなか手助けしにくいという面もあるのでこれをもって道徳心がないとは言えない。 (2)1 年 26（一昨年 19、昨年 22）、2 年 37（一昨年 31、昨年 33）、3 年 61（一昨年 63、昨年 51）というように 1･2 年では中々明確な目標が持てないでいる生徒が多いが、徐々に改善している。数値は低く出ているが、目標保持の肯定回答は 1 年で 64%、2 年で 68%となっているので高い数値である。3 年の目標保持の肯定回答は 80%と高くなっている。 (3)保護者アンケート結果が肯定回答 81（一昨年 81、昨年 81）に対して否定回答が 16（一昨年 16、昨年 15）となっている。子どもたちの質は良くなり、何事にも熱心に取り組む生徒が着実に増えてきている。生徒と同様様々な行事に保護者が参加出来るようになったことで年々数値が果然されている。しかし、施設が手狭であることから取り組みにも限界がある。工夫をして良い学校行事にしていく必要がある。 その他、新校舎が完成するにあたり、生徒同士が交流できる場所（ラーニングコモンズ）ができることは良い事だと思う。

3 信 頼 さ れ る 学 校 づ く り	**3 保護者との信頼関係の醸成** (1)保護者と信頼関係の構築 ○　ホームページの充実 ○　学芸新聞の発行 ○　進路だよりの発行 (2)進路情報の発信 (3)防災教育への取り組み	高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信(学校生活充実度と進路情報の発信度)が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識している。 (1)担任のきめ細かな対応 体罰・暴言のないクラス・クラブ経営と教科指導を確立するための職員会議等を通した啓発活動を進める。 (2)ホームページの充実 ニュース、トピックスにて更新内容を周知する。 (3)授業参観や進路・生活指導についての保護者集会を充実 教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行う。 (4) 保護者が学校行事に来やすい環境を作る。 (5)　学芸新聞の発行 (6)　防災教育の充実 〇避難訓練(火災時と地震時に分けて)の実施と防災備品の整備を行う。 電車通学している生徒も多く、災害発生時に帰宅困難となることも想定し防災グッズを常備する。	(1)授業参観や懇談会は適切な頻度で行われていて学校の様子をうかがい知る機会として機能している」という保護者アンケートの肯定意見を 60 以上とする。 (2)①「入学前と入学後の学校のイメージは良くなった。」②「あなたは知人や、将来的に自分の子どもにこの学校を紹介しようと思うか」という数値を 40 以上とする。 (3)「この学校に入学させて良かった。知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい」という保護者アンケートの数値を 50 以上とする。 (4)「担任は相談しやすく、誠実に対応してくれる」という保護者アンケートの肯定回答を 80%以上とする (5)「学校は一人ひとりの生徒を大切にしてくれる」という数値を 45 以上とする。 (6)学校からの情報発信源となるホームページの閲覧数を 130,000 回/月以上とする。 (7)進路部長からの保護者対象の進路講話の充実。 (8)大和川決壊や地震等災害による帰宅困難者対応を引き続き行う。	(1)87%（一昨年 76%、昨年 87%）の肯定意見があった。否定的見解も 11%（一昨年 11%、昨年 10%）にとどまり改善が見られる。 (2)①1 年 79（一昨年 71、昨年 60）、2 年 52（一昨年 57、昨年 52）、3 年 56（一昨年 52、昨年 60）となっている。逆にイメージが悪くなったと答えたものが 1 年 21（一昨年 29、昨年 41）、2 年 48（一昨年 43、昨年 48）、3 年 44（一昨年 48、昨年 40）となっている。②についても「紹介したい」が 1 年 87（一昨年 79、昨年 75）、2 年 60（一昨年 65、昨年 59）、3 年 60（一昨年 57、昨年 65）で全体でも 70（一昨年 68、昨年 66）と昨年から改善した。A 回答－B 回答でも 40 指数とギリギリ目標を達成することが出来た。さらに改善していく必要がある。 (3)全体の 79%（一昨年 76%、昨年 77%）の保護者が肯定的な回答を出してくれた。この項目は学校に対するロイヤリティになる。数値を出来るだけ高めることが保護者・生徒の満足度に直結する数字なので分析を進めていきたい。 (4)肯定回答は 90%（一昨年 89%、昨年 91%）と高い数値で有り、否定回答も 8%（一昨年 9%、昨年 7%）と減少している。特に電話対応のきめ細かさが大切であり、家庭訪問のない私立学校では 4 月当初、懇談までに各家庭に担任から挨拶の電話を入れるように取組をさらに進めたい。 (5)肯定－否定の数値が全体として 44 指数(一昨年 44、昨年 47）となった。数値目標には少し到達していないが、本校の特色は丁寧できめ細やかな対応にあると考えている。今後もこの方針を曲げないように教職員に啓発を続けて行くことが大切。 (6)学校のホームページが充実していると考えている保護者は 77%（一昨年 78%、昨年 78%）と高い評価となっている。ホームページの閲覧者数が 248,051 回（昨年度 382,512 回）となり目標を上回ったが、昨年と比較して減少となっている。 (7)進路部長による講話や進路だよりを通して保護者への啓発が十分にできた。また、予備校等の関係者からの大学入試の現状についての説明会も定着してきている。 (8)昨年度に続き災害避難物資もすべての生徒に配布し教室保管することができている。教室に配置された備蓄物資にいたずらをする生徒もなく卒業まで保管されている。この物資を使わなくても良い日々が続くことを祈りつつ。
	特記事項	1　ICT 教育について、最新式の電子黒板の全教室入れ替えを行った。 2　西館校舎の老朽化により 2026 年度に向けて新館校舎建築を行う。 3　保護者・地域のニーズから 2026 年度より通常授業 5 日制・2 学期制を実施するため、教育課程や学校行事を精査していく。		